

2014 年度

聴覚障害児への情報保障の提供および講演会の開催

【事業内容】

1) 聴覚障害生徒への学校情報支援者の配置

時期：2014年5月～2015年1月 計103回

対象者：聴覚障害高校生1名

内容：生徒の受講する授業のテープ起こし

2) 遠隔による情報支援方法を学ぶ講習会

時期：2015年2月 計4回

場所：兵庫県民会館

対象者：遠隔情報支援者及びアプリ活用者

内容：遠隔情報支援方法、音声認識の活用の可能性について

3) 遠隔支援現場の視察研修

時期：2014年6月4日

場所：(特)長野サマライズ・センター（長野県塩尻市）

内容：筑波技術大学ゼミ講義の情報支援現場の視察

4) 情報保障制度化を実現するための講演会

時期：2014年7月27日

場所：兵庫県宝塚市 男女共同参画センター

対象者：聴覚障害児生徒の保護者、一般市民

内容：情報支援制度の必要性についての講義

講師：宮城教育大学 松崎丈 准教授

1) 聴覚障害生徒への学校情報支援者の配置

2014年5月～2015年1月末までの期間

公立高校に通う聴覚障害生徒（以下、当事者）

支援者5名で当事者が希望する教科、日本史・現代文・化学の3教科について、合計103回の授業内容の音声字起こしを実施。

当事者が希望する科目をICレコーダーで録音し、データをファイル預かりサービスで支援者に届け、支援者がそれぞれの地で字起こしを行い、ワープロ文書にしたものをメールで当事者に送付する。

各授業は50分間であるが、音声の字起こしは、教諭の話し方や、録音状態によって慣れない者では約3倍の時間を必要とする。

授業は毎日行われており、次の授業が行われるまでに字起こししたものを届けることは難しい場合が多い。

2) 遠隔による情報支援方法を学ぶ講習会

2015年2月8日 15日 3月29日午前 29日午後 の計4回

2月8日は実際に行っている遠隔支援の方法と必要機材について、15日は遠隔支援時に利用するソフトの説明。

3月29日の午前は音声認識により文字を表出するアプリの使い方について、午後は音声認識アプリと遠隔支援を行うソフトを組み合わせる方法について講習を実施。

3月29日はアプリ利用の当事者も参加して仕組みを理解した。

会場は、兵庫県民会館を利用。

対象者は、遠隔で情報支援を行おうと考える者、すでに行っている者と利用当事者

2月8日の様子

講師：長野サマライズ・センター 小笠原恵美子氏



2月15日の様子

講師：静岡福祉大学 森直之氏 長野サマライズ・センター 小笠原恵美子氏



3月29日午前の様子

講師：UD トーク開発者 青木秀仁氏





3月29日午後の様子

講師：静岡福祉大学森直之氏 青木秀仁氏 長野サマライズ・センター小笠原恵美子氏



《遠隔支援方法を学ぶ講習会》 アンケート 20150329

◎どちらから来られましたか？

神戸市5、新温泉町1、伊丹市2、川西市2、明石市1、南あわじ市1、加古川市1、姫路市1、三重県四日市市1、大阪府門真市1

1、 どの講習会に参加されましたか？（丸を付けてください）

- ・2月8日（講師：小笠原氏） 3
- ・2月15日（講師：森氏） 4
- ・3月29日午前（講師：青木氏） 1 4
- ・3月29日午後（講師：森氏） 9

2、 特に良かったと思われることをお書きください。

（2月15日）

無線ルーターでのIPアドレスの指定方法が理解できた。

（3月29日午前）

UDトークの活用方法をいろいろ考えさせられました。

UDトーク本当に便利なツールですね、実用できればいいなと思います。

音声認識は初めてじゃないが、自分で発言した内容を自分で直せる点がすばらしいと思う。

言葉に責任を持つという意味でもこういうものが一般化されていくとよいと思う。

分かりやすい。

UDトークの使い方がよく分かった。

細かいところまでいろいろ聞きました、ありがとうございます。

手軽に屋外で使えることがすばらしいです。

楽しく使える、マイクを使えば本番だけでなく休憩時なども共有できる。

すばらしいUDトークだと実感しました。

UDトークの完成は、入力者の努力次第で完璧なものになる。

音声認識ソフトは昔使ったことがあるが、しばらく見ない間に随分使えるようになった。いろいろな可能性が感じられた。

2つの部屋で分けて表示すると変なものを見せないですむので良いですね。

IPtalk以外のソフトや音声認識など新しい情報。

（3月29日午後）

まあちゃんも初めてのことで楽しくて、楽しくて！

良かった。

3、 特に悪かったと思われることがあればお書きください。

やはり、認識率というか人の音声（それも日本語）の難しさを感じる。

これだけ機械で間違えるのだから、難聴者・児がいかに聞こえづらいかの証明にもなる

のでは？

4、 学校情報支援を遠隔で行う場合、ご協力をお願いできますか？

・できる（お名前： ） 7

・できない

・分からない 8

学校が OK なら協力したい。

ろう学校の通級など方法によっては可能。

現状では難しい。

5、 ご意見、ご感想を自由にお書きください。

今の子どもたちの恵まれた情報支援が見られて良かった。

自分の子ども時代がウソのようです。

ニュースなどで知っていたことですが、実際に体験で来てうれしく思った。

とてもよかったですありがとうございました。

情報満載で消化できるかが課題ですが、ありがとうございました。

初めての UD トーク研修に参加させていただきありがとうございました。

使いこなせるよう頑張りたいと思います。

単語登録はこれまでもありましたので完成していくごとに自分の財産となります。

目からウロコ・・・ではなく「目そのもの」が落ちました。

現場が欲しい、地元にはない。でもこのシステムを知ると知らないでは、

生き方が違ってくる。

UD トークは、難聴の子どもの学習にとって有意義と思いました。

変換スピードに驚きました。

まあちゃんは絵が描けることと、リスピークウィンドウが使いやすいと思いました。

個別塾の先生など、使いやすいかも（理科の説明など）

丁寧な講義ありがとうございました。

認識率が上がると嬉しい。

分かりやすく、UD トークを使ってみようと思った。

能動的に動ける人には、聴覚障害者でも修正は可能だと感じた。

リスピークについて、やはり男性の音声の方が良い？

（以前女性の声は判別しづらいと言っていた）

要約筆記現場で音声認識を使えるとよいと感じた。

（サブとして記録に残す、難聴者が自分の記録として残せる）

繰り返し使うことで認識率が上がれば、電話などでの音声認識も

可能になっていくように感じる。

ありがとうございました。多くの方に分かってもらいたいと思いました。

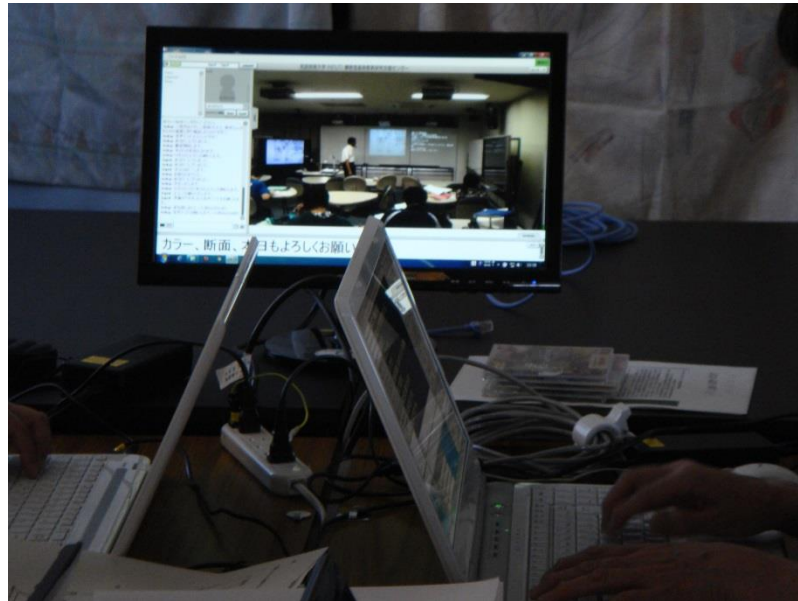
学校の現場でどのように活用することができるのか、

ぜひ導入させていただきたいと思いました。

3) 遠隔支援現場の視察研修

2014年6月4日(水)(特)長野サマライズ・センター(長野県塩尻市)事務所で実施されている、筑波技術大学ゼミ講義の遠隔情報支援現場を視察した。

筑波技術大学のゼミ会場の様子を写した映像と音声をパソコンおよびスマートフォンで受信し、長野県塩尻市にある入力現場で再生しながら文字入力を行う。起こした文字データはゼミ会場とつながっているパソコンもしくはタブレットに送信する。



ゼミ会場と入力会場、機材の設定がかなり煩雑になっている。

小中高等学校において、この方法の導入はかなり難しい課題があるように感じた。

4) 情報保障制度化を実現するための講演会

2014年7月27日(日)宮城教育大学の松崎丈准教授にお越しいただき、情報支援制度の必要性についての講義を兵庫県宝塚市の男女共同参画センターにおいて実施
対象者は聴覚障害児生徒の保護者、一般市民。



《学校情報支援の制度化を実現するための講演会》 アンケート

20140727

◎どちらから来られましたか？

(宝塚市 尼崎市 神戸市 丹波市)

1、 事業の実施は何でお知りになりましたか？

- ・タウン誌(誌名:) ・web ページ ・知人の紹介 3
- ・新聞記事(新聞) ・広報誌 ・社協だより 2
- ・ちらし 1 ・他(阪神難聴言語障害教育研究会からの案内 2 親の会 2)

2、 近くの学校に情報支援はありますか？

- ・ある それはどこですか？
宝塚市の小学校・中学校 神戸市の中学校
- ・ない 1 ・分からない 5

- 3、 特に良かったと思われたことがあればお書きください。
情報保障が思考活動と深くかかわっていることが分かりました。
聴覚障害児のつまづくところ、理解してもらうための説明がよく分かりました。
支援の大切さ、始まったきっかけが分かり、これからの啓発に役立てたい。
情報保障が得られないで過ごした場合のリスク面についてよく理解できました。
情報保障支援が幼少のころより必要だということがよく分かりました。
講師のお話は分かりやすく、ご自身の努力がどれほどだったかと思いながら聞きました。
現状が理解できた。法制度の発展の遅れ、これを急ぐ必要がある。
具体的事例をともに内容がよく分かりました。
聴覚障害のある側も、なぜどのような支援が必要かしっかり主張できる力が必要と思う。
難聴児の聞こえについてのグラフがあり、後の内容がよく理解できた。
合理的配慮を糧に要望していく方法も詳しく聞けて参考になった。
- 4、 特に悪かったと思われたことがあればお書きください。
小学校でノートテイクをしているが、子どもたちは「分かったふりをする」、そうしていることを自覚していない、どうサポートしていけばいいかわからなくなった。
もう少し時間があって、質疑応答ができればよかった。
- 5、 ご意見、ご感想を自由にお書きください。
聴覚言語に関わる全ての団体や学識経験者等を含め結集して運動すべきと思った。
小・中・高に情報保障の制度が必要であると行政に積極的に伝えていくべき。
子どもが正しく聞けるか、配慮はとても大事。
情報保障の必要性を高めることに尽きると思いました。
合理的配慮に情報保障が入っていない、もっとアピールが必要。
授業に情報支援があつて普通になればいいですね。そのためにもっと多くの人に
関心を持ってほしいと思いました。
聴覚障害をもつ子ども自身、保護者がどのように力をつけていくかというあたりの
示唆も頂け参考になりました。
支援をしている子どもにも個性があり、とても難しいと感じています。
コミュニケーション能力を高めていくようなサポートが出来ているか、2学期からも
頑張ります。
インクルーシブ教育システムにより、聴覚障害の子どもたちも地域の小学校で学ぶこと
ができるようになったと同時に、障害者も社会性を身に着け、自分の障害をきちんと説
明し、配慮をお願いするスキルが求められてくることを痛感しました。そのようなこと
を踏まえて育てていかなければ・・・と改めて思える有意義な研修でした。
補聴器をつけて聞こえると思っても、正答と照らし合わせてみないと本当にそのよ
うに聞こえていたかわからないということを知り、情報支援の大切さ、重要性がとても
よく分かりました。口話支援についても分かりました。
このような講演会は教育に携わる人たちに、特に聞いてほしい。
資料などの文章がとても分かりやすく助かりました。